



写真で見る第 19 回学会大会

日本災害情報学会は、第 19 回学会大会（実行委員長：矢守克也 京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授）を平成 29 年 10 月 21 日～22 日の日程で、京都大学宇治キャンパスで開催しました。今回の大会は台風接近のために、いくつかの予定の変更を余儀なくされましたが、大雨にもかかわらず 291 名もの方に会場に足を運んでいただき活発な議論が展開されました。

10月21日（土）

受付開始	08時45分～	[ハイブリッドスペース]
口頭発表[セッション1]	09時30分～10時40分	A・B・C会場
口頭発表[セッション2]	10時50分～12時00分	A・B・C会場
お昼休憩	12時00分～13時00分	
口頭発表[セッション3]	13時00分～14時40分	A・B・C会場 ※A会場のみ14:20迄
公開シンポジウム	15時00分～17時00分	A会場
廣井賞授与式・記念講演	17時05分～17時35分	A会場
ポスターセッション	17時40分～18時40分	ポスター会場
懇親会	19時00分～20時30分	宇治キャンパス内、大学生協

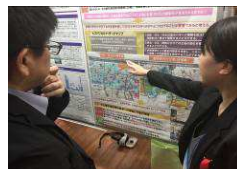
10月22日（日）

受付開始	09時00分～	[ハイブリッドスペース]
口頭発表（セッション4）	09時30分～10時40分	A・B・C会場
口頭発表（セッション5）	10時50分～12時00分	A・B・C会場
口頭発表（セッション6）	12時10分～13時50分	A・B・C会場 ※A会場のみ13:30迄
※台風 2 1 号接近の為、総会は中止、阿部賞・河田賞受賞者は後日ニューズレター等でご案内		

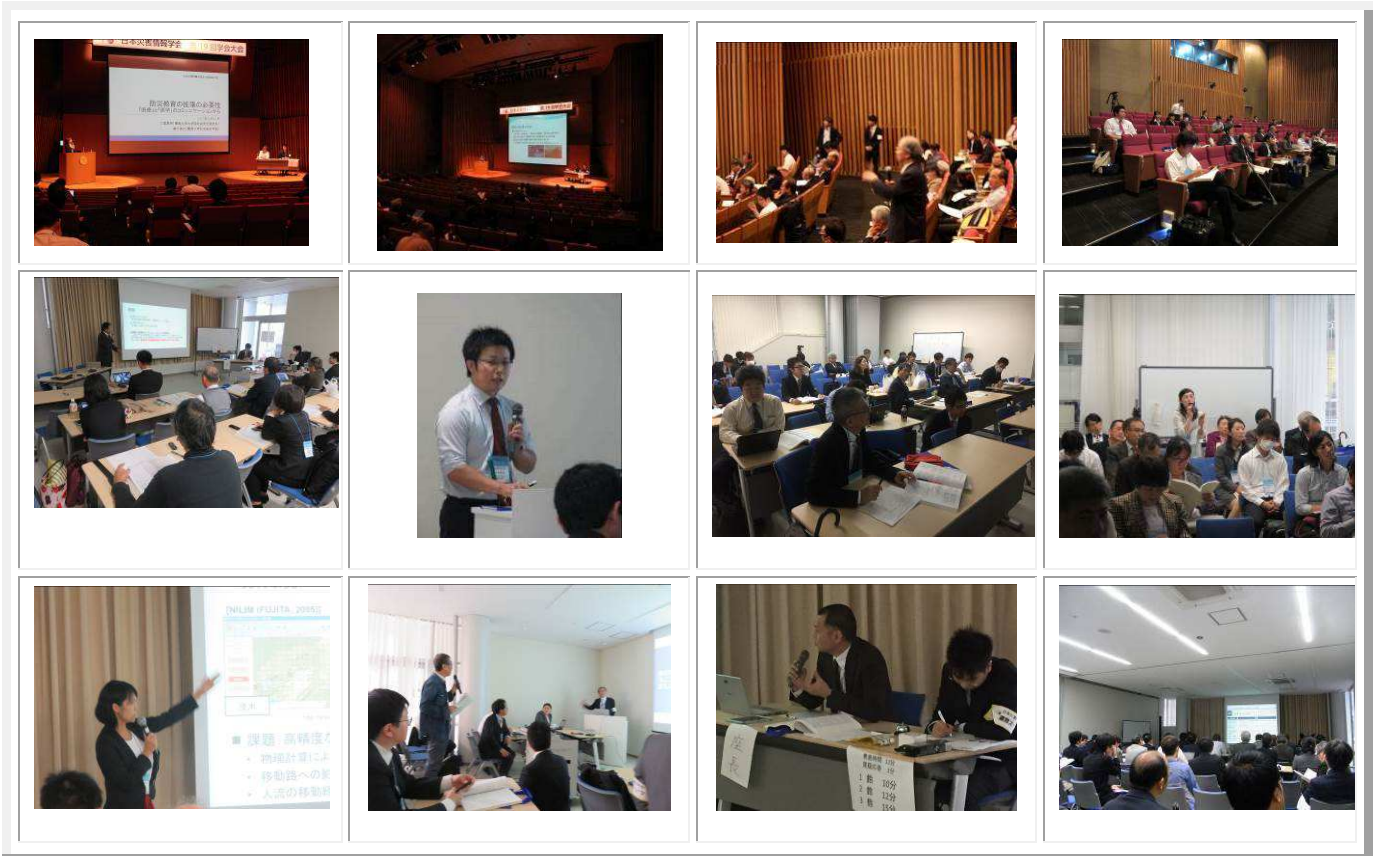


全国各地から 291 名が宇治に！

写真で見る学会大会2017



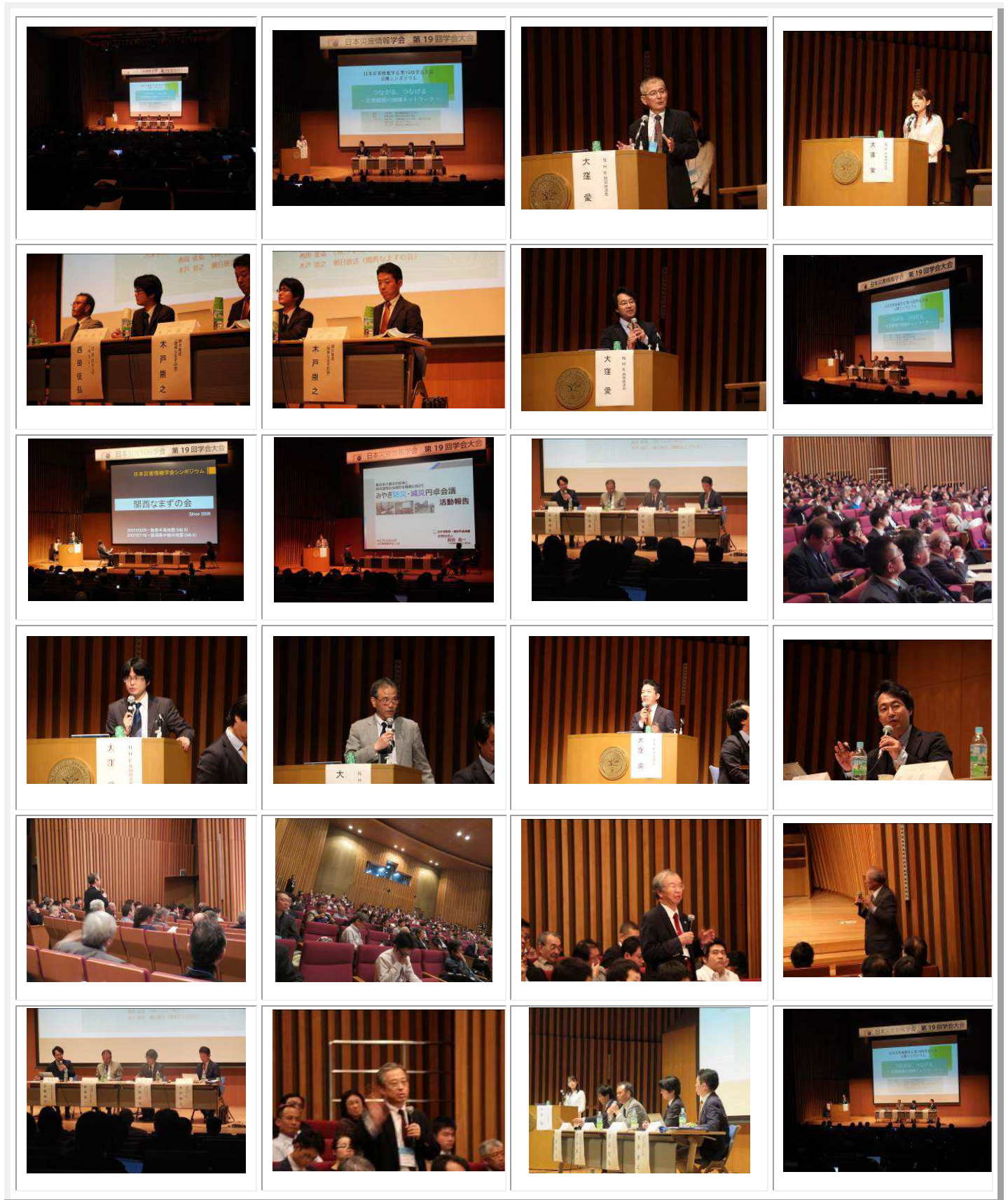
口頭発表



ポスターセッション



公開シンポジウム 「つながる、つなげるー災害情報の地域ネットワークー」



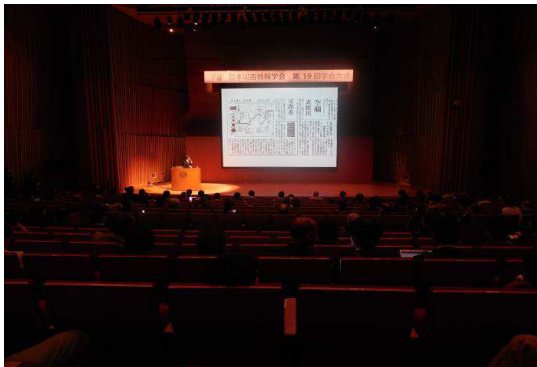
廣井賞授賞式・記念講演

日本災害情報学会は 2006 年、初代会長の故廣井脩氏（元東京大学大学院教授）の志を後世に伝えるため廣井賞を創設し、11 回目の授与式を 10 月 21 日、学会大会席上で行った。

今年荣誉に輝いたのは下記の社会的功績分野 1 社。

分野	受賞者	対象功績
社会的功績 (団体)	静岡新聞社	平成元年に連載を開始した「地球のシグナル」、全国初の週一回の別刷り発行の「週刊地震新聞」やそれを引き継ぎ現在も継続中の月 2 回の特集ページ「いのちを守る防災しずおか」、さらに東海地震に関する大型企画である「東海地震説 20 年・駿河湾 M8 への挑戦」、「2001 年東海地震は今」、「沈黙の 30 年」、「沈黙の駿河湾・東海地震説 40 年」など、静岡新聞社が時代毎の先進的な地震報道に積極的かつ継続的に取り組まれたことは、県民・読者の防災意識や行政の防災対応の向上につながり、その社会的貢献は極めて大きいものである。また、南海トラフ巨大地震等の被害が予測されている他地域の地方紙の模範ともなるものである。





阿部賞・河田賞授賞式

日本災害情報学会は2014年、若手会員の奨励を目的に、学会大会での優秀発表に対して、ポスター発表部門には阿部賞、口頭発表部門には河田賞を創設した（両賞は、元会長の故阿部勝征氏（東京大学名誉教授）及び河田恵昭氏（京都大学名誉教授）の名を冠したもの）。

今年の受賞者は下記の7名。

分野	受賞者	表彰発表タイトル
阿部賞 (優秀若手ポスター賞)	中井春香氏 ナカニシヤクリエイティブ株式会社	過去地図と史跡から災害を考えるヒストリカルハザードマップ
	岡田夏美氏 京都大学大学院情報学研究科	学校防災教育における教科横断型のカリキュラム構築の研究
	小島彰吾氏 株式会社アイ・ディー・エー 社会技術研究所	“共感”による主体性醸成を目指した防災教育にみるコミュニケーション・デザインに関する考察～社会ネットワーク理論を用いた授業記述をとおして～
河田賞 (優秀若手発表賞)	橋富彰吾氏 関西大学大学院社会安全研究科	南海トラフの巨大地震発生と原油処理能力の関係
	小林秀行氏 明治大学情報コミュニケーション学部	クライストチャーチ地震における意見集約事業の実際－復興の理念はいかにして創出されたのか－
	黒田望氏 京都大学大学院情報学研究科	東日本大震災前後の製造業における取引の変化について
	齋藤健太氏 名古屋大学大学院	災害時疎開シミュレーションの構築と検証

懇親会



PHOTO by KAIDA , SATO, NAKAGOME , TAKEI , KITAMURA and KURODA